

# 技術者教育における日本語コミュニケーション能力向上にメソッドの開発とデータベース化に向けての高専・技術大連携プロジェクトの取り組み

有明工業高等専門学校 ○焼山廣志, 小山工業高等専門学校 井上次夫, 柴田美由紀  
奈良工業高等専門学校 鍵本有理, 宇部工業高等専門学校 畑村 学  
阿南工業高等専門学校 坪井 泰士, 豊橋技術科学大学 中森 康之

## 1. はじめに

筆者は、勤務校有明高専において、実践的技術者養成のための「日本語コミュニケーション教育」をどのように進めていくべきか模索を続けてきた。それは「実践的技術者」には、専門的技術だけでなく、それを他者との関係の中で生かすためのコミュニケーション能力が強く求められていると痛感しているからである。その一例に勤務校がJABEE認定をされる折「日本語・外国語によるコミュニケーション・発表能力」の重視が明記されたことから分かる。現在、高専や大学においては、一般教養科目、専門科目を問わず、プレゼンテーション、ディスカッション、文章表現力等の様々な日本語コミュニケーション教育が行われている。しかし高専と大学、各高専間での連携がほとんどなく、個々の試みが有機的に機能していないのが現状である。これを克服するために情報を収集し誰でも使用可能な「教育メソッド」を開発し、共有出来るものを構築することを目標に1大学5高専による共同プロジェクトを立ち上げた経緯と現況を以下に紹介したい。

## 2. プロジェクトの概要と現況

このプロジェクトは、豊橋技術科学大学の中森と有明高専の焼山が、平成19年度「豊橋技術科学大学高専連携教育研究プロジェクト」の採択を受けて共同研究を始めた事に端を発する。そのテーマは「高専から技科大に継続する日本語(国語)コミュニケーション能力の向上に向けた教育プログラムの開発と、それに基づくオリジナルテキストの作成」であった。併せて、その時、教研集会等で、この共同研究の趣旨に賛同できる他の高専からの参加を募ったところ、宇部高専の畑村、小山高専の井上、柴田、奈良高専の鍵本が加わり、平成21年度・22年度の「豊橋技術科学大学高専連携教育研究プロジェクト」の採択を受けた。その研究テーマは「技術者教育における日本語コミュニケーション能力向上メソッドの開発とデータベース化」であった。現在このテーマで研究・実践を遂行

中である。

以下、その具体的な内容を紹介したい。

このプロジェクトでは、従来各高専・技科大学で独自に行われていた「日本語コミュニケーション教育」の授業内容から教材として有効なもの・高専の特徴を生かしたカリキュラムを、個別の教員・高専の規模ではなく、広く高専・技科大間で共有できるようにし、有効利用を図る点を最大の目標として活動している。具体的には、以下の通りである。

- (1) 高専教育(一般科目、専門科目)における「プレゼンテーション教育」、「ディスカッション教育」、「文章表現教育」に関して、これまで報告されたものの、現在試みている実践例について共同研究者を中心に、収集・分類・整理を行ってきた
- (2) (1)の中から「自分で考え、表現できる技術者」のためのコミュニケーション教材として有効と思われる実践をもとに、共同研究者の在籍する大学・高専において実際に教材・教授法を実践し、その有効性を検証する機会を持ってきた。(授業参観および意見交換会)また高専・教員間で共有・使用可能な普遍的メソッドとなるよう改良を加え、分類、整理の上、データベース化するための基礎資料作りに取り組んできた。
- (3) 上記を現在すでに公開している高専連携教育研究プロジェクトHP<sup>注1)</sup>を利用して公開している。その際、メソッドの使用例、資料なども合わせて公開してきた。また可能な限り更新を行い、コンテンツの充実に向けて努力している。

## 3. プロジェクトメンバー紹介と各自の取り組み概要(五十音順)

- |  |
|--|
| (1)小山高専 井上 次夫 (2)奈良高専 鍵本 有理<br>(3)小山高専 柴田美由紀 (4)阿南高専 坪井 泰士<br>(5)豊橋技科大 中森 康之 (6)宇部高専 畑村 学<br>(7)有明高専 焼山 廣志 |
|--|

【連絡先】〒836-8585 福岡県大牟田市東萩尾町150 有明工業高等専門学校 一般教育科  
焼山廣志 TEL0944-53-8644 Fax0944-53-8644 E-mail yakiyama@ariake-nct.ac.jp

【キーワード】技術者教育, 日本語コミュニケーション, 高専・技科大連携.

#### (1) 小山高専 井上 次夫

本科の2年生では「近代の名作の朗読発表会」を開催し、発音・発声・音読段階から自己表現としての朗読・暗唱段階へと高める工夫を行った。また、3年生では「2学科合同授業」を企画し、4人1グループで90人規模の聴衆を相手にプレゼンテーションを行うことを通じて、研究発表の準備、手順、効果的な発表法等を身に付けさせた。

さらに、専攻科1年生では、毎回、異なるグループ編成による協議を行う中で、コミュニケーション能力を高める「ワークショップ」を実施した。

#### (2) 奈良高専 鍵本 有理

専攻科の「日本語表現論」という科目において、独自のテキストを使用し、「文章を書く・話すトレーニング」と位置づけた授業を実践している。また本科の「国語」の授業でも、手紙や意見文を「書く」、詩を鑑賞し「話し合う」作業を取り入れ、さらに学生同士の相互評価もさせている。それらの実践を通じて、特に工学系の学生が必要としている教授内容（手紙の形式など基本的な知識のほか、外来語や常用漢字など表記に関する動向、物事をわかりやすく説明する方法など）が明らかになってきた。そこで他のメンバーと教材共有化を行い、学生の表現能力を高める課題を新規に取り入れることができた。

#### (3) 小山高専 柴田美由紀

聞く・話す能力を着実かつ効率的に育成するための「長期的かつ体系的なコミュニケーションスキルプログラム」の開発を行った。併せて、これに対応する教材を作成・整理し、授業での試用・改訂を経て、教材冊子『STEP UP! 日本語コミュニケーションスキルテキスト』を制作した。また、「ステップシステム」の開発を始めた。これは、ステップ別に用意された教材を自由に組み合わせることで、プログラムをクラスの個性や到達度に合わせて自在に構成できるようにする仕組みであり、教員間の引継ぎを円滑にする効果も期待できるものである。

#### (4) 阿南高専 坪井 泰士

ディクテーションノートを実施している。授業中、学生の多くは板書を写すことに気を取られ、授業理解に至らない。ディクテーションノートではキーワードを板書し、重要事項は口頭で説明（繰り返す、強調する）する。これにより、聞いて理解しようと集中が増し、学生の質問は板書内容でなく授業内容に関わるものへと移行してきた。授業冒頭で実施しているリレースピーチ（1人1分程度で、テーマを関連させつつ連続してスピーチする）など、実践的なコミュニケー

ションに大いに資すると学生も評価している。

#### (5) 豊橋技科大 中森 康之

特に「話す」力の養成を試みている。一つは「人前で話す」ことに対して、小さな成功体験を積み重ねる試みである。「20秒挨拶」などのメソッドを開発し、実施している。

もう一つは、「他者に自分の声を届け、他者の声を深く受け止める」力の養成である。「声の道」「呼びかけゲーム」などのメソッドを試行し、「他者（の身体）に届く声」（声の身体性）を体感させている。二つとも最初は戸惑う学生も多いが、慣れてくると、話すことへの欲望が確実に増大する効果がある。

#### (6) 宇部高専 畑村 学

古典の授業（特に漢文）で、コミュニケーション能力を育成する取り組みに力を入れている。これまでは、現代文の授業の中でスピーチやプレゼンテーションを取り入れ、話す力だけでなく、聞く力や図解力といった能力を育成する取り組みを行ってきた。昨年度より、本文の読解だけに止まらない、コミュニケーション能力をレベルアップさせる取り組みも行っている。具体的には、『論語』の一章を各自が調べて図解資料にまとめ、内容の紹介だけでなく、孔子の意見に対して自分の意見を述べるというもの等である。それ以外にも、漢詩を図解することで図解力を習得する取り組み、『史記』の翻訳を脚本化して朗読劇を上演することなどを計画している。

#### (7) 有明高専 焼山 廣志

日本語コミュニケーション能力向上に向けての基礎素養として「他者により書かれたものを正確に把握する能力を習得させること」を最重要目標に定め、新聞のコラム・社説を教材に、有明高専独自のテキストを編集したものを使って、コラム全文の書写、300字の要約、社説全文の要約といったものに、順次レベルアップをはかるメソッドを考案した。そして専攻科の2年次までの7年間実践してきた。平成22年度より新たに「日本語の聞き取り能力定着」に向けてディクテーションメソッドを考案し実践している。

#### 4. 今後の方向性

現在それぞれが独自の取り組みを実践しており、その成果が上がりつつある。今後の課題としてそれらをデータベース化（クラウド化）してコンテンツを充実させていきたい。さらにはこうした取り組みに賛同してもらえる研究仲間を募っていきたいと考えている。

注1) [http://las.tut.ac.jp/~nakamori/engineer\\_japanese/index.html](http://las.tut.ac.jp/~nakamori/engineer_japanese/index.html)